

⑬相談、ケアマネジメント

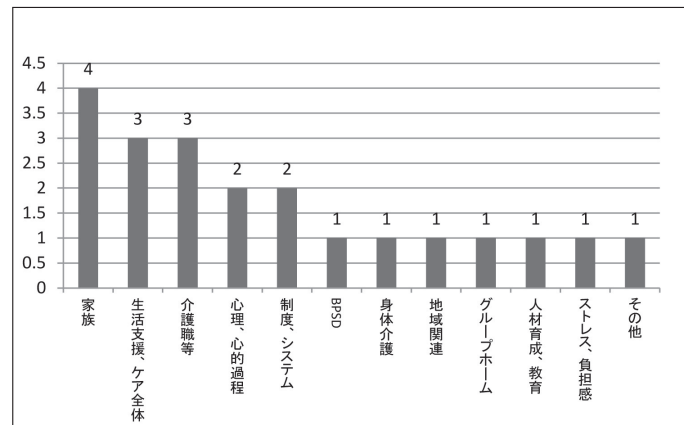
⑬-1 他の研究内容との重複

相談、ケアマネジメントに関連する研究16件のうち重複している研究内容では、「家族」の研究が最も多く、4件(25.0%)となっており、次いで「生活支援、ケア全体」、「介護職等」、がともに3件(18.8%)、「心理、心的過程」、「制度、システム」がともに2件(12.5%)となっている。

表⑬-1 他の研究内容との重複件数 (N=16)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
家族	4	25.00%
生活支援、ケア全体	3	18.80%
介護職等	3	18.80%
心理、心的過程	2	12.50%
制度、システム	2	12.50%
BPSD	1	6.30%
身体介護	1	6.30%
地域関連	1	6.30%
グループホーム	1	6.30%
人材育成、教育	1	6.30%
ストレス、負担感	1	6.30%
その他	1	6.30%

図⑬-1 他の研究内容との重複状況 (N=16)



⑬-2 研究方法の傾向

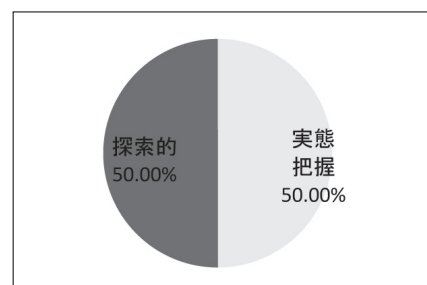
⑬-2-1 研究タイプ1の傾向

相談、ケアマネジメントに関する研究16件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「実態把握研究」、「探索的研究」がともに8件(50.0%)であり、両者は拮抗している。

表⑬-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	8	50.00%
探索的	8	50.00%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	16	100.00%

図⑬-2-1 研究タイプ1



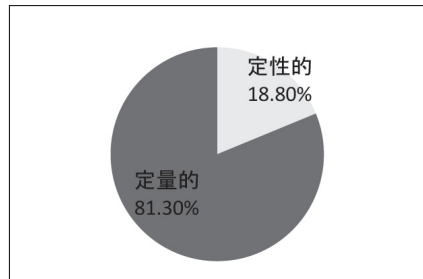
⑬-2-2 研究タイプ2の傾向

相談、ケアマネジメントに関する研究16件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」が13件(81.3%)であり、全体の8割を超えている。次いで「定性的研究」が3件(18.8%)となっており、「定性的と定量的研究」はなかった。

表⑬-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	3	18.80%
定量的	13	81.30%
定性的と定量的	0	0.00%
合計	16	100.00%

図⑬-2-2 研究タイプ2



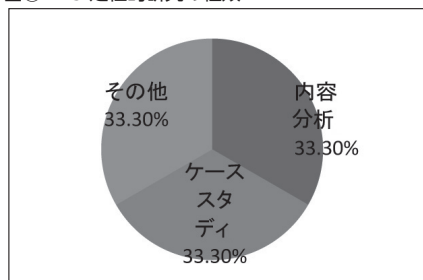
⑬-2-3 定性的研究の種類

定性的研究の3件のうち、その研究種類は「内容分析」、「ケーススタディ」、「その他」がそれぞれ1件(33.3%)となっており、他の種類はなかった。

表⑬-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	1	33.30%
会話分析	0	0.00%
エスノメソドロジー	0	0.00%
グラウンデッドセオリー	0	0.00%
ケーススタディ	1	33.30%
その他	1	33.30%
合計	3	100.00%

図⑬-2-3 定性的研究の種類



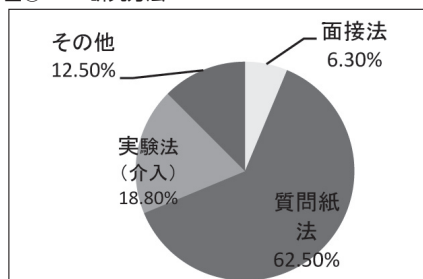
⑬-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、「質問紙法」が10件で62.5%となっており、次いで「実験法(介入)」が3件で18.8%となっており、続いて「その他」が2件(12.5%)、「面接法」が1件(6.3%)となっている。

表⑬-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	0	0.00%
面接法	1	6.30%
質問紙法	10	62.50%
実験法(介入)	3	18.80%
その他	2	12.50%
観察法と面接法	0	0.00%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	0	0.00%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	16	100.00%

図⑬-2-4 研究方法



⑬-2-5 観察法の種類

観察法の種類について、観察法を用いた研究がなかったため、種類の結果は得られなかった。

⑬-2-6 面接法の種類

面接法の種類について、面接法を用いた研究は1件のみであり、種類は「半構造的面接」であった。

表⑬-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	0	0.00%
半構造的面接	1	100.00%
グループインタビュー	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	1	100.00%

図⑬-2-6 面接法の種類



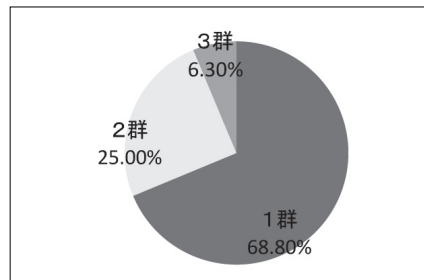
⑬-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、最も割合が高かったのは、「1群」であり11件(68.8%)であり、次いで「2群」が高く、4件(25.0%)であった。さらに「3群」が1件(6.3%)となっている。

表⑬-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	11	68.80%
2群	4	25.00%
3群	1	6.30%
4群	0	0.00%
合計	16	100.00%

図⑬-2-7 対象群数



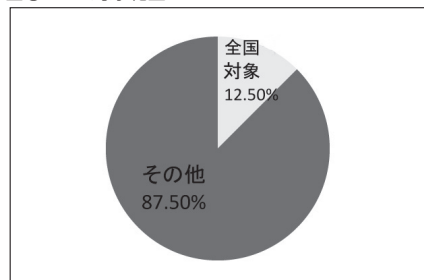
⑬-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲において、16件の中で「全国対象」は2件のみで12.5%であり、「その他」が14件で87.5%であり、多くを占めている。

表⑬-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	2	12.50%
その他	14	87.50%
合計	16	100.00%

図⑬-2-8 対象範囲



⑬-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

相談、ケアマネジメントの研究において、実施期間の平均は12件中349.33日であり、研究地域数の平均は12件中1.50地域であった。事業所数の平均は8件中34.87事業所であり、対象者人数の平均は15件中646.33人であった。

表⑬-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間（日）	12	14	3300	349.33	933.685
研究地域数	12	1	7	1.50	1.732
事業所数	8	1	123	34.87	54.465
対象者人数（人）	15	1	5075	646.33	1324.494

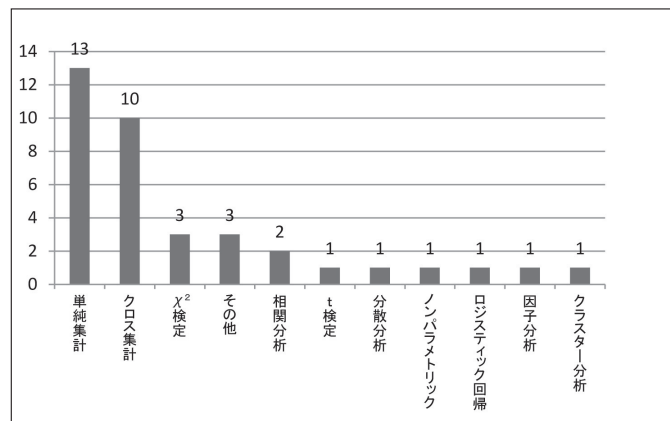
⑬-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が13件であり、81.3%である。次いで「クロス集計」が10件、62.5%であり、さらに「 χ^2 検定」、「その他」が3件で18.8%、「相関分析」が2件で12.5%と続いている。

表⑬-2-10 分析方法の件数 (N=16)

	件数	重複割合 (%)
単純集計	13	81.30%
クロス集計	10	62.50%
χ^2 検定	3	18.80%
その他	3	18.80%
相関分析	2	12.50%
t検定	1	6.30%
分散分析	1	6.30%
ノンパラメトリック	1	6.30%
ロジスティック回帰	1	6.30%
因子分析	1	6.30%
クラスター分析	1	6.30%

図⑬-2-10 分析方法の件数 (N=16)



⑬-3 対象者属性の傾向

⑬-3-1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、12件の対象者の平均年齢は62.219歳であり、標準偏差は17.5385歳である。最大値は80.6歳、最小値は37.6歳となっている。

表⑬-3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
相談、ケアマネジメント	62.219	12	17.5385	37.6	80.6

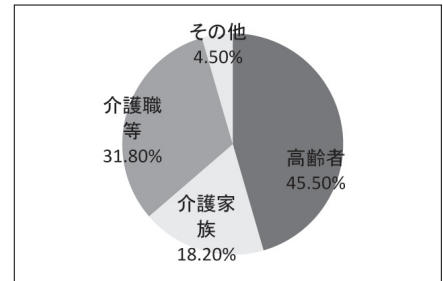
⑬-3-2 対象者属性の傾向

対象者属性について、対象者の属性が「高齢者」が最も多く10件(45.5%)となっている。次いで、「介護職等」が7件(31.8%)となっており、「介護家族」が4件(18.2%)、「その他」が1件(4.5%)となっている。

表⑬-3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	10	4	7	0	1	22
割合	45.50%	18.20%	31.80%	0.00%	4.50%	100.00%

図⑬-3-2 対象者属性



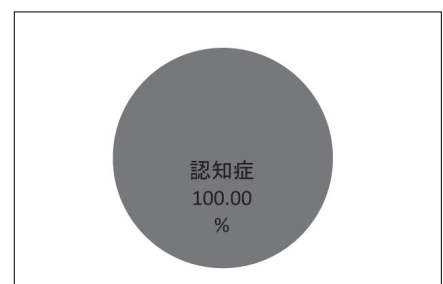
⑬-3-3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者の10件の中で、その内訳は全てが「認知症」であり、他の高齢者属性はなかった。

表⑬-3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	10	0	0	0	10
割合	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図⑬-3-3 高齢者属性



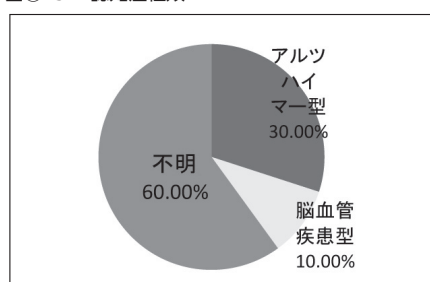
⑬-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、「不明」が6件、60.0%であり、「アルツハイマー型」が3件(30.0%)であり、「脳血管疾患型」は1件(10.0%)であった。

表⑬-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型(ピック)	不明	その他	合計
件数	3	1	0	0	6	0	10
割合	30.00%	10.00%	0.00%	0.00%	60.00%	0.00%	100.00%

図⑬-3-4 認知症種類



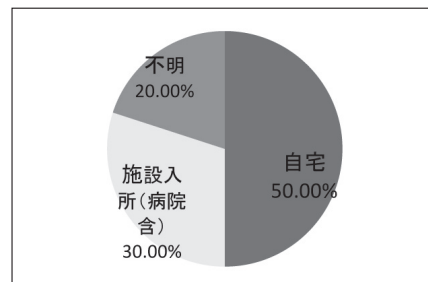
⑬-3-5 所在の傾向

所在については、「自宅」が最も多く、5件(50.0%)となっている。次いで「施設入所(病院含)」が3件であり、30.0%、「不明」が2件(20.0%)であった。

表⑬-3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	5	3	0	0	2	10
割合	50.00%	30.00%	0.00%	0.00%	20.00%	100.00%

図⑬-3-5 所在



⑬-3-6 利用サービスの傾向

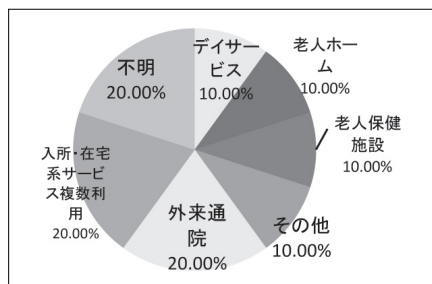
利用サービスについての傾向は、「外来通院」、「入所・在宅系サービス複数利用」、「不明」がそれぞれ2件であり、それぞれ20.0%であった。次いで「デイサービス」、「老人ホーム」、「老人保健施設入所」、「その他」がそれぞれ1件(10.0%)となっている。

表⑬-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院
件数	0	1	0	0	1	1	0
割合	0.00%	10.00%	0.00%	0.00%	10.00%	10.00%	0.00%

	グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス 複数利用	在宅系サービス 複数利用	入所・在宅系サ ービス複数利用	不明	合計
件数	0	1	2	0	0	2	2	10
割合	0.00%	10.00%	20.00%	0.00%	0.00%	20.00%	20.00%	100.00%

図⑬-3-6 利用サービス



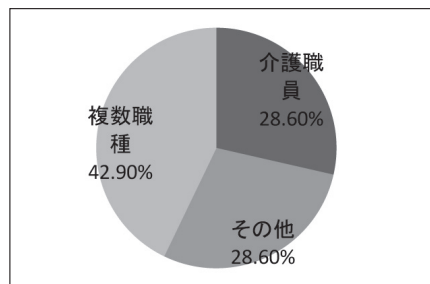
⑬-3-7 職員種別の傾向

職員種別については「複数職種」が最も多く3件(42.9%)であり、「介護職員」、「その他」がそれぞれ2件ずつで28.6%であった。他の職員種別はなかった。

表⑬-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	2	0	0	0	0	0	2
割合	28.60%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	28.60%
	介護・看護職	複数職種	合計				
	0	3	7				
	0.00%	42.90%	100.00%				

図⑬-3-7 職員種別



⑭制度・システム

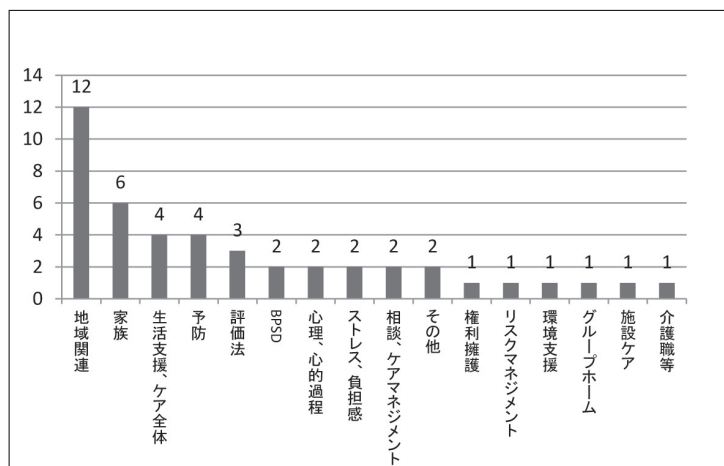
⑭-1 他の研究内容との重複

制度・システムに関連する研究29件のうち重複している研究内容では、「地域関連」の研究が最も多く、12件(41.4%)となっており、次いで「家族」が6件(20.7%)、「生活支援、ケア全体」、「予防」がともに4件(13.8%)、「評価法」が3件(10.3%)となっている。

表⑭-1 他の研究内容との重複件数 (N=29)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
地域関連	12	41.40%
家族	6	20.70%
生活支援、ケア全体	4	13.80%
予防	4	13.80%
評価法	3	10.30%
BPSD	2	6.90%
心理、心的過程	2	6.90%
ストレス、負担感	2	6.90%
相談、ケアマネジメント	2	6.90%
その他	2	6.90%
権利擁護	1	3.40%
リスクマネジメント	1	3.40%
環境支援	1	3.40%
グループホーム	1	3.40%
施設ケア	1	3.40%
介護職等	1	3.40%

図⑭-1 他の研究内容との重複状況 (N=29)



⑭-2 研究方法の傾向

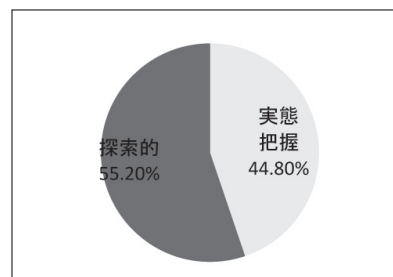
⑭-2-1 研究タイプ1の傾向

制度・システムに関する研究29件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「探索的研究」が16件(55.2%)であり全体の半数を超えている。「実態把握研究」は13件(44.8%)である。

表⑭-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	13	44.80%
探索的	16	55.20%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	29	100.00%

図⑭-2-1 研究タイプ1



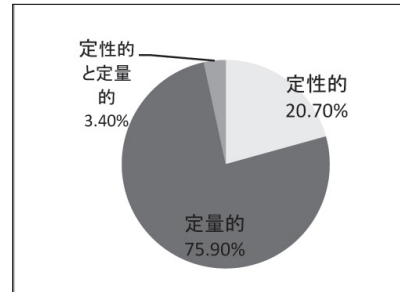
⑭-2-2 研究タイプ2の傾向

制度・システムに関する研究29件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」が22件(75.9%)であり、全体の3/4程度である。次いで「定性的研究」が6件(20.7%)となっており、「定性的と定量的研究」は1件(3.4%)であった。

表⑭-2-2 研究タイプ

	件数	割合
定性的	6	20.70%
定量的	22	75.90%
定性的と定量的	1	3.40%
合計	29	100.00%

図⑭-2-2 研究タイプ2



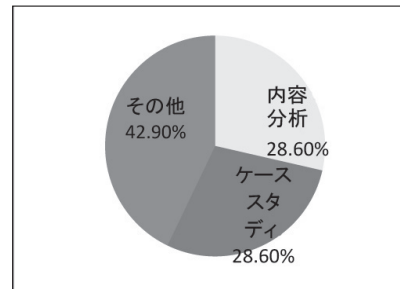
⑭-2-3 定性的研究の種類

定性的研究の7件のうち、その研究種類は「その他」が3件(42.9%)であり、「内容分析」、「ケーススタディ」がそれぞれ2件(28.6%)となっており、他の種類はなかった。

表⑭-2-3 定性的研究種類

	件数	割合
内容分析	2	28.60%
会話分析	0	0.00%
エスノメソドロジー	0	0.00%
グラウンデッドセオリー	0	0.00%
ケーススタディ	2	28.60%
その他	3	42.90%
合計	7	100.00%

図⑭-2-3 定性的研究の種類



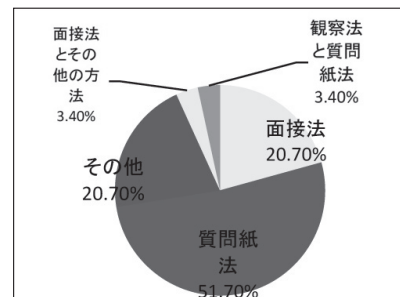
⑭-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、「質問紙法」が15件で51.7%となっており、次いで「面接法」、「その他」がともに6件で20.7%となっており、続いて「観察法と質問紙法」、「面接法とその他の方法」がともに1件(3.4%)となっている。

表⑭-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	0	0.00%
面接法	6	20.70%
質問紙法	15	51.70%
実験法(介入)	0	0.00%
その他	6	20.70%
観察法と面接法	0	0.00%
観察法と質問紙法	1	3.40%
面接法と質問紙法	0	0.00%
面接法とその他の方法	1	3.40%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	29	100.00%

図⑭-2-4 研究方法



⑭-2-5 観察法の種類

観察法の種類について、観察法を用いた研究は1件のみであり、「参与観察」であった。

表⑭-2-5 観察法の種類

	件数	割合
参与観察	1	100.00%
非参与観察	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	1	100.00%

図⑭-2-5 観察法の種類



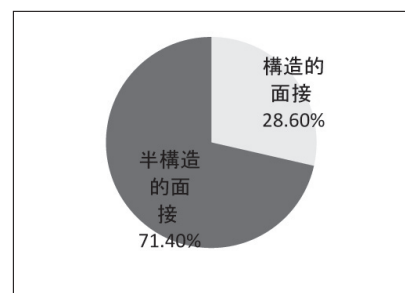
⑭-2-6 面接法の種類

面接法の種類について、面接法を用いた研究は7件であり、「半構造的面接」が5件(71.4%)、「構造的面接」が2件(28.6%)であった。

表⑭-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	2	28.60%
半構造的面接	5	71.40%
グループインタビュー	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	7	100.00%

図⑭-2-6 面接法の種類



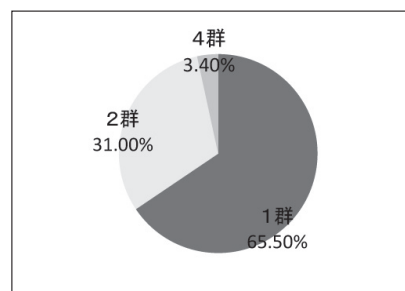
⑭-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、最も割合が高かったのは、「1群」であり19件(65.5%)であり、次いで「2群」が高く、9件(31.0%)であった。さらに「4群」が1件(3.4%)となっている。

表⑭-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	19	65.50%
2群	9	31.00%
3群	0	0.00%
4群	1	3.40%
合計	29	100.00%

図⑭-2-7 対象群数



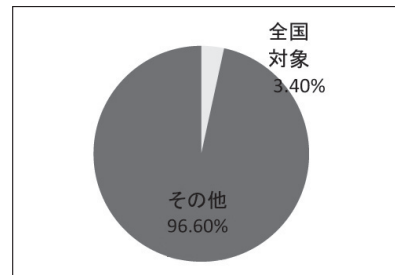
⑭-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲において、29件の中で「全国対象」は1件のみで3.4%であり、「その他」が28件で96.6%であり、ほとんどが「その他」である。

表⑭-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	1	3.40%
その他	28	96.60%
合計	29	100.00%

図⑭-2-8 対象範囲



⑭-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

制度・システムの研究において、実施期間の平均は16件中540.38日であり、研究地域数の平均は26件中2.50地域であった。事業所数の平均は11件中28.91事業所であり、対象者人数の平均は28件中3128.36人であった。

表⑭-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間（日）	16	18	3240	540.38	1011.264
研究地域数	26	1	23	2.50	4.65
事業所数	11	1	175	28.91	53.51
対象者人数（人）	28	12	75662	3128.36	14232.094

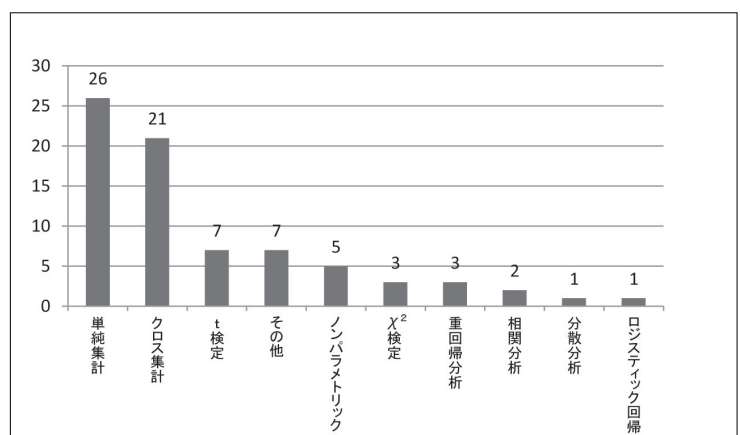
⑭-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数では、「単純集計」が26件(89.7%)であり最も多い。次いで「クロス集計」が21件、72.4%であり、さらに「t検定」、「その他」7件(24.1%)、「ノンパラメトリック」が5件で17.2%と続いている。

表⑭-2-10 分析方法の件数 (N=26)

	件数	重複割合 (%)
単純集計	26	89.70%
クロス集計	21	72.40%
t検定	7	24.10%
その他	7	24.10%
ノンパラメトリック	5	17.20%
χ^2 検定	3	10.30%
重回帰分析	3	10.30%
相関分析	2	6.90%
分散分析	1	3.40%
ロジスティック回帰	1	3.40%

図⑭-2-10 分析方法の件数 (N=26)



⑭ - 3 対象者属性の傾向

⑭ - 3 - 1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、22件の対象者の平均年齢は74.945歳であり、標準偏差は7.7687歳である。最大値は81.3歳、最小値は55.0歳となっている。

表⑭ - 3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
制度、システム	74.945	22	7.7687	55.0	81.3

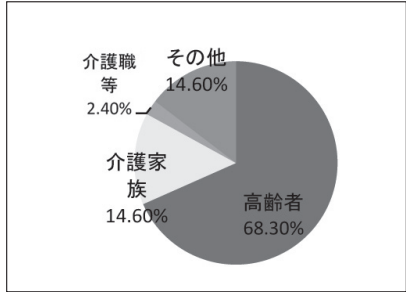
⑭ - 3 - 2 対象者属性の傾向

対象者属性について、対象者の属性が「高齢者」が最も多く28件(68.3%)となっている。次いで、「介護家族」、「その他」がともに6件(14.6%)となっており、「介護職等」が1件(2.4%)となっている。

表⑭ - 3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	28	6	1	0	6	41
割合	68.30%	14.60%	2.40%	0.00%	14.60%	100.00%

図⑭ - 3-2 対象者属性



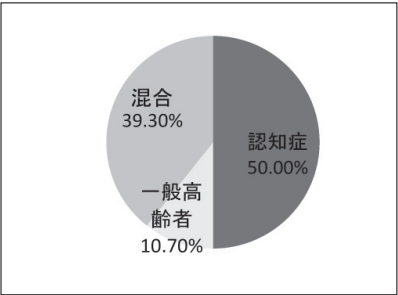
⑭ - 3 - 3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者の28件の中で、「認知症」が14件(50.0%)と最も多く、次いで「混合」が11件(39.3%)であり、「一般高齢者」が3件(10.7%)となっている。

表⑭ - 3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	14	0	3	11	28
割合	50.00%	0.00%	10.70%	39.30%	100.00%

図⑭ - 3-3 高齢者属性



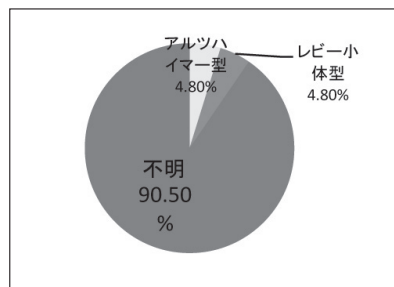
⑭-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、「不明」が19件、90.5%であり、「アルツハイマー型」、「レビー小体型」がともに1件(4.8%)であった。

表⑭-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型(ピック)	不明	その他	合計
件数	1	0	1	0	19	0	21
割合	4.80%	0.00%	4.80%	0.00%	90.50%	0.00%	100.00%

図⑭-3-4 認知症種類



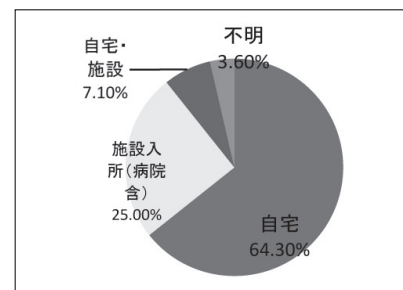
⑭-3-5 所在の傾向

所在については、「自宅」が最も多く、18件(64.3%)となっている。次いで「施設入所(病院含)」が7件であり、25.0%、「自宅・施設」が2件(7.1%)、「不明」が1件(3.6%)であった。

表⑭-3-5 所在

	自宅	施設入所(病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	18	7	0	2	1	28
割合	64.30%	25.00%	0.00%	7.10%	3.60%	100.00%

図⑭-3-5 所在



⑭-3-6 利用サービスの傾向

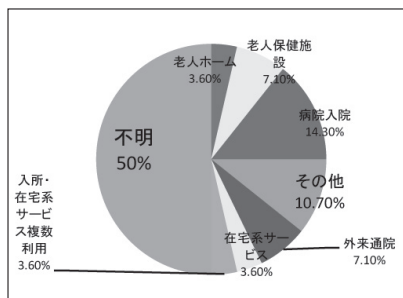
利用サービスについての傾向は、「不明」が14件(50.0%)と最も多く、次いで、「病院入院」が4件(14.3%)、「その他」が3件(10.7%)、「老人保健施設」、「外来通院」がともに2件であり、7.1%と続いている。

表⑭-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院
件数	0	0	0	0	1	2	4
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.60%	7.10%	14.30%

グループホーム	その他	外来通院	入所サービス 複数利用	在宅系サービス 複数利用	入所・在宅系サ ービス複数利用	不明	合計
0	3	2	0	1	1	14	28
0.00%	10.70%	7.10%	0.00%	3.60%	3.60%	50.00%	100.00%

図⑭-3-6 利用サービス



⑭-3-7 職員種別の傾向

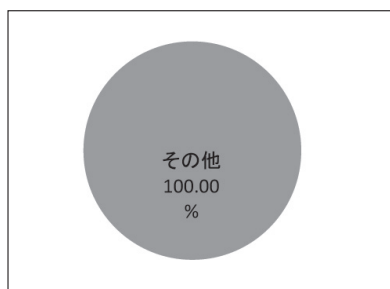
職員種別は1件の研究のみであり、種別は「その他」であった。

表⑭-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	0	0	0	0	0	0	1
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

介護・看護職	複数職種	合計
0	0	1
0.00%	0.00%	100.00%

図⑭-3-7 職員種別



⑮生活支援・ケア全体

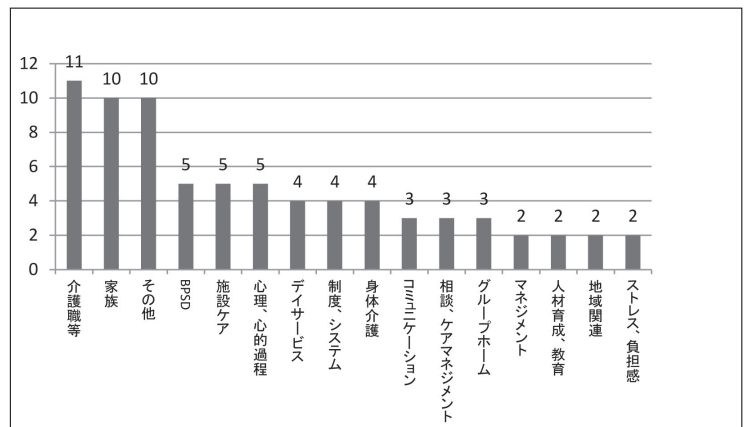
⑮-1 他の研究内容との重複

生活支援・ケア全体に関連する研究51件のうち重複している研究内容では、「介護職等」の研究が最も多く、11件(21.6%)となっており、次いで「家族」、「その他」がともに10件(19.6%)、「BPSD」、「施設ケア」「心理、心的過程」がともに5件(9.8%)、「デイサービス」、「制度、システム」、「身体介護」、が4件(7.8%)となっている。

表⑮-1 他の研究内容との重複件数 (N=51)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
介護職等	11	21.60%
家族	10	19.60%
その他	10	19.60%
BPSD	5	9.80%
施設ケア	5	9.80%
心理、心的過程	5	9.80%
デイサービス	4	7.80%
制度、システム	4	7.80%
身体介護	4	7.80%
コミュニケーション	3	5.90%
相談、ケアマネジメント	3	5.90%
グループホーム	3	5.90%
マネジメント	2	3.90%
人材育成、教育	2	3.90%
地域関連	2	3.90%
ストレス、負担感	2	3.90%

図⑮-1 他の研究内容との重複状況 (N=51)



⑮-2 研究方法の傾向

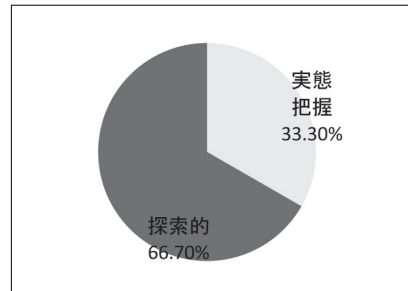
⑮-2-1 研究タイプ1の傾向

生活支援・ケア全体に関する研究51件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「探索的研究」が34件(66.7%)であり全体の2/3程度となっている。「実態把握研究」は17件(33.3%)である。

表⑮-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	17	33.30%
探索的	34	66.70%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	51	100.00%

図⑮-2-1 研究タイプ1



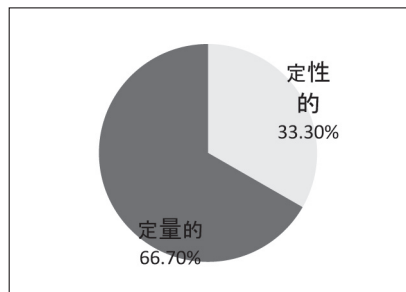
⑮-2-2 研究タイプ2の傾向

生活支援・ケア全体に関する研究51件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」が34件(66.7%)であり、全体の3/4程度である。次いで「定性的研究」が17件(33.3%)となっており、「定性的と定量的研究」はなかった。

表⑮-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	17	33.30%
定量的	34	66.70%
定性的と定量的	0	0.00%
合計	51	100.00%

図⑮-2-2 研究タイプ2



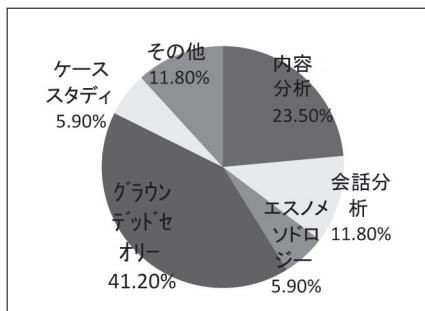
⑮-2-3 定性的研究の種類

定性的研究の17件のうち、その研究種類は「グラウンデッドセオリー」が7件(41.2%)であり、「内容分析」が4件(23.5%)、「会話分析」、「その他」がそれぞれ2件(11.8%)と続いている。

表⑮-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	4	23.50%
会話分析	2	11.80%
エスノメソドロジー	1	5.90%
グラウンデッドセオリー	7	41.20%
ケーススタディ	1	5.90%
その他	2	11.80%
合計	17	100.00%

図⑮-2-3 定性的研究の種類



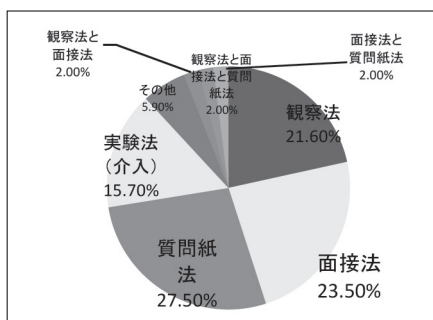
⑮-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、「質問紙法」が14件で27.5%となっており、次いで「面接法」が12件(23.5%)、「観察法」が11件(21.6%)となっており、続いて「実験法(介入)」が8件(15.7%)、「その他」が3件(5.9%)と続いている。

表⑮-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	11	21.60%
面接法	12	23.50%
質問紙法	14	27.50%
実験法(介入)	8	15.70%
その他	3	5.90%
観察法と面接法	1	2.00%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	1	2.00%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	1	2.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	51	100.00%

図⑮-2-4 研究方法



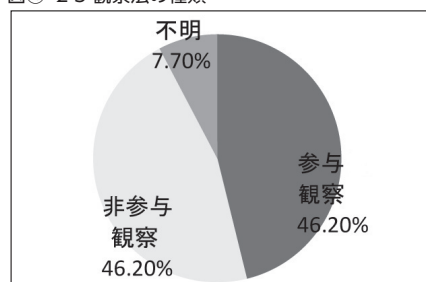
⑮-2-5 観察法の種類

観察法の種類について、観察法を用いた研究の13件のうち、「参与観察」、「非参与観察」が、ともに6件(46.2%)となっており、「不明」が1件(7.7%)となっている。

表⑮-2-5 観察法の種類

	件数	割合
参与観察	6	46.20%
非参与観察	6	46.20%
不明	1	7.70%
その他	0	0.00%
合計	13	100.00%

図⑮-2-5 観察法の種類



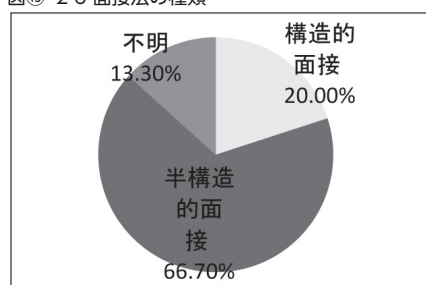
⑮-2-6 面接法の種類

面接法の種類について、面接法を用いた研究は15件であり、「半構造的面接」が10件(66.7%)であり、全体の2/3を占めている。次いで「構造的面接」が3件(20.0%)であり、「不明」は2件(13.3%)であった。

表⑮-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	3	20.00%
半構造的面接	10	66.70%
グループインタビュー	0	0.00%
その他	0	0.00%
不明	2	13.30%
合計	15	100.00%

図⑮-2-6 面接法の種類



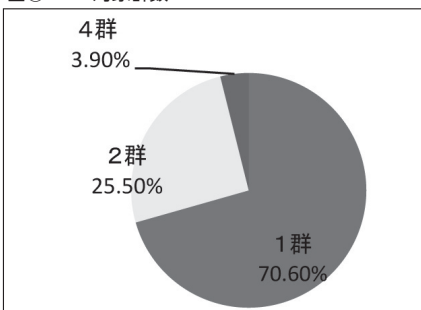
⑮-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、最も割合が高かったのは、「1群」であり36件(70.6%)となっており、次いで「2群」が高く、13件(25.5%)であった。さらに「4群」が2件(3.9%)となっている。

表⑮-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	36	70.60%
2群	13	25.50%
3群	0	0.00%
4群	2	3.90%
合計	51	100.00%

図⑮-2-7 対象群数



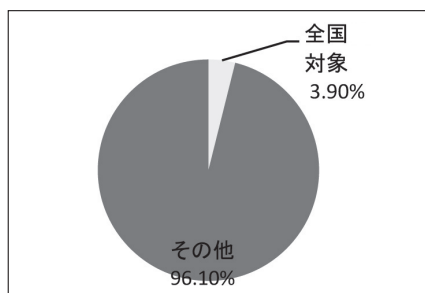
⑮-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲において、51件の中で「全国対象」は2件のみで3.9%であり、「その他」が49件で96.1%であり、ほとんどが「その他」である。

表⑮-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	2	3.90%
その他	49	96.10%
合計	51	100.00%

図⑮-2-8 対象範囲



⑮-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

生活支援・ケア全体の研究において、実施期間の平均は34件中194.00日であり、研究地域数の平均は39件中1.49地域であった。事業所数の平均は31件中12.26事業所であり、対象者人数の平均は51件中341.35人であった。

表⑮-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間 (日)	34	1	2550	194.00	458.202
研究地域数	39	1	7	1.49	1.467
事業所数	31	1	126	12.26	32.485
対象者人数 (人)	51	1	8971	341.35	1276.42

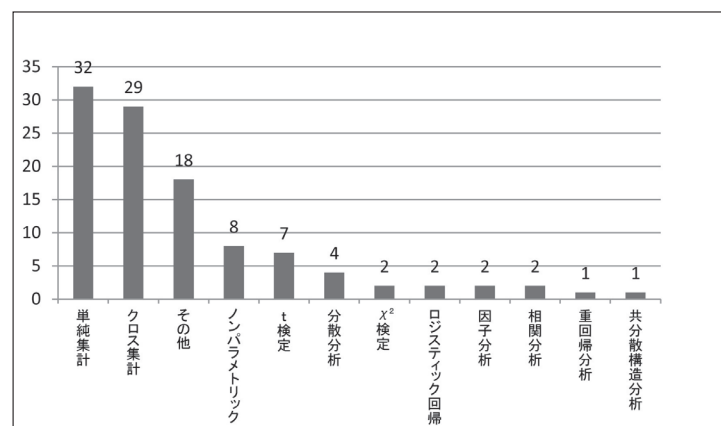
⑮-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が32件(62.7%)であり最も多い。次いで「クロス集計」が29件、56.9%であり、さらに「その他」が18件(35.3%)、「ノンパラメトリック」が8件(15.7%)、「t検定」が7件(13.7%)と続いている。

表⑮-2-10 分析方法の件数 (N=51)

分析方法分類	件数	重複割合 (%)
単純集計	32	62.70%
クロス集計	29	56.90%
その他	18	35.30%
ノンパラメトリック	8	15.70%
t検定	7	13.70%
分散分析	4	7.80%
χ^2 検定	2	3.90%
ロジスティック回帰	2	3.90%
因子分析	2	3.90%
相関分析	2	3.90%
重回帰分析	1	2.00%
共分散構造分析	1	2.00%

図⑮-2-10 分析方法の件数 (N=51)



⑮ - 3 対象者属性の傾向

⑮ - 3 - 1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、50件の対象者の平均年齢は75.130歳であり、標準偏差は15.1712歳である。最大値は88.0歳、最小値は29.0歳となっている。

表⑮ - 3 - 1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
生活支援、ケア全体	75.130	50	15.1712	29.0	88.0

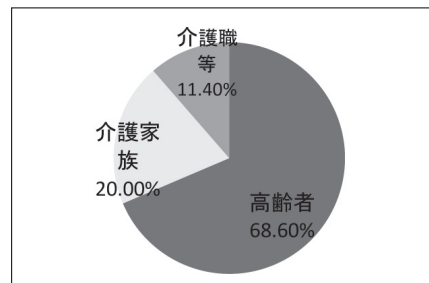
⑮ - 3 - 2 対象者属性の傾向

対象者属性について、対象者の属性が「高齢者」が最も多く48件(68.6%)となっている。次いで、「介護家族」が14件(20.0%)、「介護職等」が8件(11.4%)となっている。

表⑮ - 3 - 2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	48	14	8	0	0	70
割合	68.60%	20.00%	11.40%	0.00%	0.00%	100.00%

図⑮ - 3 - 2 対象者属性



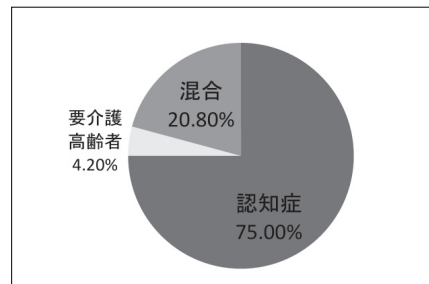
⑮ - 3 - 3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者の48件の中で、「認知症」が36件(75.0%)と最も多く全体の3/4を占めている。次いで「混合」が10件(20.8%)であり、「要介護高齢者」が2件(4.2%)となっている。

表⑮ - 3 - 3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	36	2	0	10	48
割合	75.00%	4.20%	0.00%	20.80%	100.00%

図⑮ - 3 - 3 高齢者属性



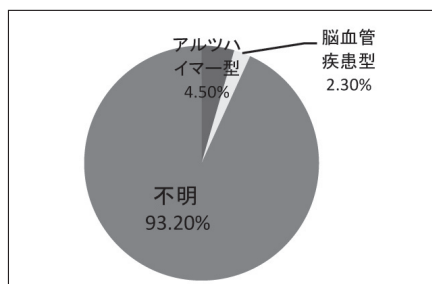
⑮-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、「不明」が41件、93.2%であり、「アルツハイマー型」が2件(4.5%)、「脳血管疾患型」が1件(2.3%)であった。

表⑮-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型(ピック)	不明	その他	合計
件数	2	1	0	0	41	0	44
割合	4.50%	2.30%	0.00%	0.00%	93.20%	0.00%	100.00%

図⑮-3-4 認知症種類



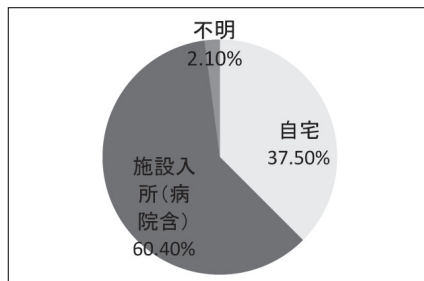
⑮-3-5 所在の傾向

所在については、「施設入所(病院含)」が最も多く、29件(60.4%)となっている。次いで「自宅」が18件であり、37.5%、「不明」が1件(2.1%)であった。

表⑮-3-5 所在

	自宅	施設入所(病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	18	29	0	0	1	48
割合	37.50%	60.40%	0.00%	0.00%	2.10%	100.00%

図⑮-3-5 所在



⑮-3-6 利用サービスの傾向

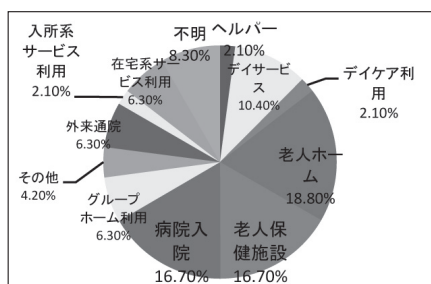
利用サービスについての傾向は、「老人ホーム」が9件(18.8%)と最も多く、次いで、「老人保健施設」、「病院入院」がともに8件(16.7%)、「デイサービス」が5件(10.4%)、「不明」が4件(8.3%)と続いている。

表⑮-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院
件数	1	5	1	0	9	8	8
割合	2.10%	10.40%	2.10%	0.00%	18.80%	16.70%	16.70%

	グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス 複数利用	在宅系サービス 複数利用	入所・在宅サー ビス複数利用	不明	合計
	3	2	3	1	3	0	4	48
	6.30%	4.20%	6.30%	2.10%	6.30%	0.00%	8.30%	100.00%

図⑮-3-6 利用サービス



⑮-3-7 職員種別の傾向

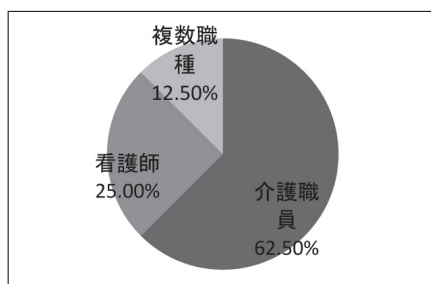
職員種別について、最も多い種別は「介護職員」であり、5件(62.5%)である。次いで「看護師」が2件(25.0%)、「複数職種」が1件(12.5%)となっている。

表⑮-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	5	0	2	0	0	0	0
割合	62.50%	0.00%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

	介護・看護職	複数職種	合計
	0	1	8
	0.00%	12.50%	100.00%

図⑮-3-7 職員種別



⑩グループホーム

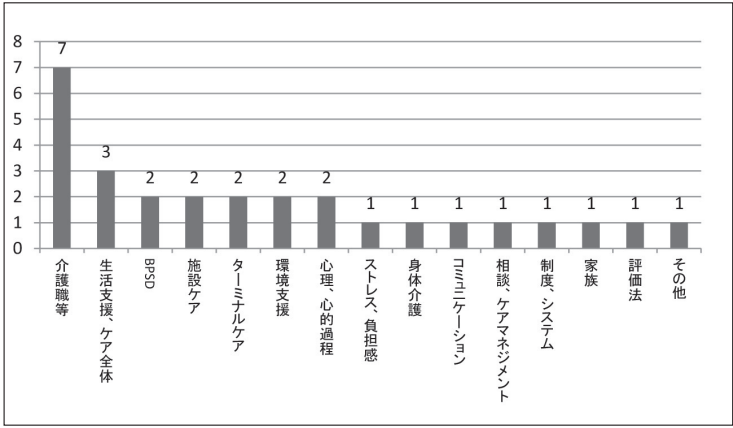
⑩-1 他の研究内容との重複

グループホームに関連する研究16件のうち重複している研究内容では、「介護職等」が7件(43.8%)で最も多く、次いで、「生活支援、ケア全体」が3件(18.8%)となっている。さらに「BPSD」、「ターミナルケア」、「環境支援」、「施設ケア」、「心理、心的過程」がそれぞれ2件で12.5%と続いている。

表⑩-1 他の研究内容との重複件数 (N=16)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
介護職等	7	43.80%
生活支援、ケア全体	3	18.80%
BPSD	2	12.50%
施設ケア	2	12.50%
ターミナルケア	2	12.50%
環境支援	2	12.50%
心理、心的過程	2	12.50%
ストレス、負担感	1	6.30%
身体介護	1	6.30%
コミュニケーション	1	6.30%
相談、ケアマネジメント	1	6.30%
制度、システム	1	6.30%
家族	1	6.30%
評価法	1	6.30%
その他	1	6.30%

図⑩-1 他の研究内容との重複状況 (N=16)



⑩-2 研究方法の傾向

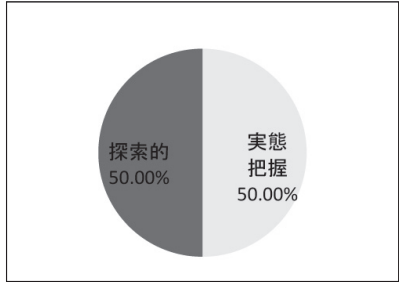
⑩-2-1 研究タイプ1の傾向

グループホームに関する研究16件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「実態把握研究」、「探索的研究」が8件(50.0%)となっている。「実態把握研究」、「探索的研究」は拮抗していることがうかがえる。

表⑩-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	8	50.00%
探索的	8	50.00%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	16	100.00%

図⑩-2-1 研究タイプ1



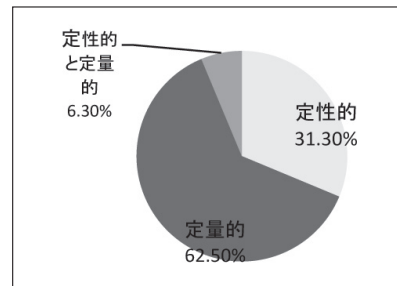
⑩-2-2 研究タイプ2の傾向

グループホームに関する研究16件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」が10件(62.5%)と最も多く、次いで「定性的研究」が5件(31.3%)となっている。「定性的と定量的」は1件(6.3%)であった。

表⑩-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	5	31.30%
定量的	10	62.50%
定性的と定量的	1	6.30%
合計	16	100.00%

図⑩-2-2 研究タイプ2



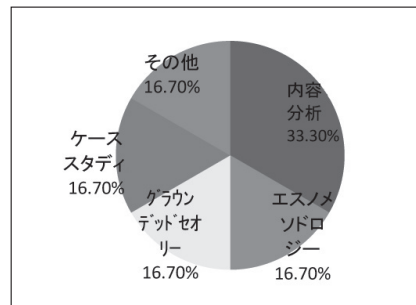
⑩-2-3 定性的研究の種類

定性的研究を用いた6件のうち、その研究種類は「内容分析」が最も多く2件(33.3%)となっている。次いで、「エスノメソドロジー」、「グラウンデッドセオリー」、「ケーススタディ」、「その他」がそれぞれ1件(16.7%)となっている。

表⑩-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	2	33.30%
会話分析	0	0.00%
エスノメソドロジー	1	16.70%
グラウンデッドセオリー	1	16.70%
ケーススタディ	1	16.70%
その他	1	16.70%
合計	6	100.00%

図⑩-2-3 定性的研究の種類



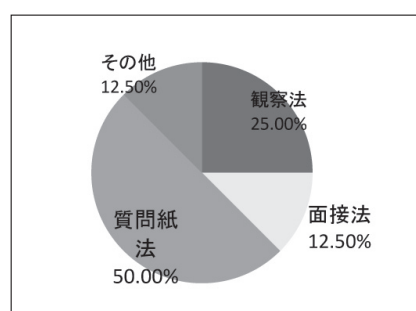
⑩-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、「質問紙法」が最も多く8件(50.0%)となっており、全体の半分を占めている。次いで「観察法」が4件(25.0%)、「面接法」、「その他」がそれぞれ2件(12.5%)となっている。

表⑩-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	4	25.00%
面接法	2	12.50%
質問紙法	8	50.00%
実験法(介入)	0	0.00%
その他	2	12.50%
観察法と面接法	0	0.00%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	0	0.00%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	16	100.00%

図⑩-2-4 研究方法



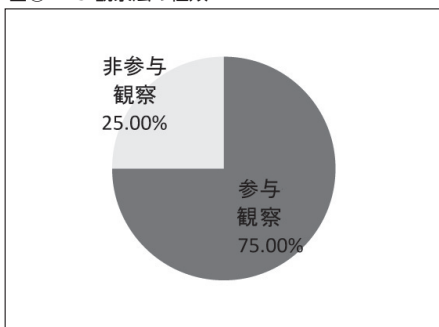
⑩-2-5 観察法の種類

観察法の種類について、観察法を用いた研究は、「参与観察」が3件(75.0%)であり、「非参与観察」は1件(25.0%)となっている。

表⑩-2-5 観察法の種類

	件数	割合
参与観察	3	75.00%
非参与観察	1	25.00%
その他	0	0.00%
合計	4	100.00%

図⑩-2-5 観察法の種類



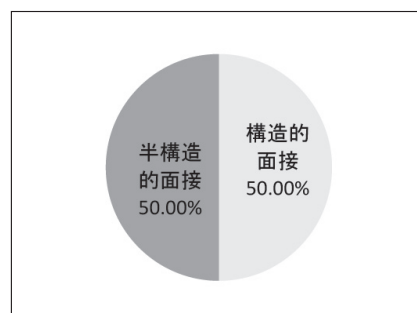
⑩-2-6 面接法の種類

面接法の種類について、面接法を用いた研究は2件のみであり、「半構造的面接」、「グループインタビュー」がそれぞれ1件ずつ(50.0%)となっている。

表⑩-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	0	0.00%
半構造的面接	1	50.00%
グループインタビュー	1	50.00%
その他	0	0.00%
合計	2	100.00%

図⑩-2-6 面接法の種類



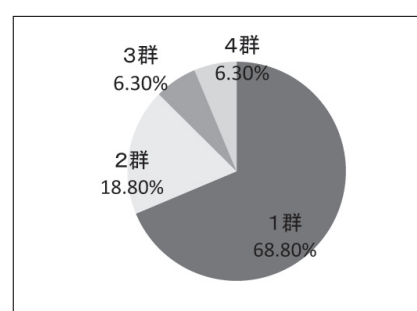
⑩-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、最も多いのは「1群」であり、11件(68.8%)となっている。次いで「2群」が3件(18.8%)であり、さらに「3群」、「4群」がそれぞれ1件(6.3%)となっている。

表⑩-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	11	68.80%
2群	3	18.80%
3群	1	6.30%
4群	1	6.30%
合計	16	100.00%

図⑩-2-7 対象群数



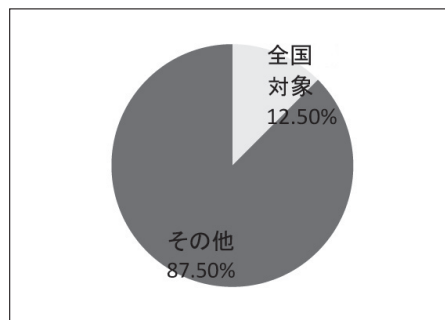
⑩-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲において、16件の中で、「全国対象」が2件のみで12.5%となっており、「その他」が14件(87.5%)で多くを占めている。

表⑩-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	2	12.50%
その他	14	87.50%
合計	16	100.00%

図⑩-2-8 対象範囲



⑩-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

グループホームの研究において、実施期間の平均は7件中66.29日であり、研究地域数の平均は11件中5.00地域である。事業所数の平均は14件中315.07事業所であり、対象人数の平均は16件中516.50人となっている。

表⑩-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間 (日)	7	44	120	66.29	24.425
研究地域数	11	1	44	5.00	12.938
事業所数	14	1	3557	315.07	938.648
対象者人数 (人)	16	5	3557	516.5	1036.857

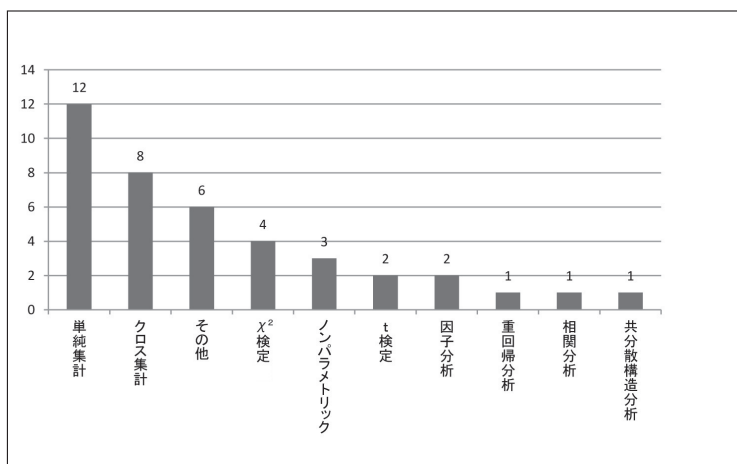
⑩-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が最も多く、12件(75.0%)となっており、全体の3/4が「単純集計」を用いている。次いで、「クロス集計」であり8件(50.0%)、「その他」が6件(37.5%)、「 χ^2 検定」が4件(25.0%)、「ノンパラメトリック」が3件(18.8%)と続いている。

表⑩-2-10 分析方法の件数 (N=16)

	件数	重複割合 (%)
単純集計	12	75.00%
クロス集計	8	50.00%
その他	6	37.50%
χ^2 検定	4	25.00%
ノンパラメトリック	3	18.80%
t検定	2	12.50%
因子分析	2	12.50%
重回帰分析	1	6.30%
相関分析	1	6.30%
共分散構造分析	1	6.30%

図⑩-2-10 分析方法の件数 (N=16)



⑩ - 3 対象者属性の傾向

⑩ - 3 - 1 平均年齢

平均年齢の傾向としては、14件の対象者の平均年齢は71.464歳であり、標準偏差は19.4982歳である。最大値は85.7歳、最小値は38.5歳となっている。

表⑩ -3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
グループホーム	71.464	14	19.4982	38.5	85.7

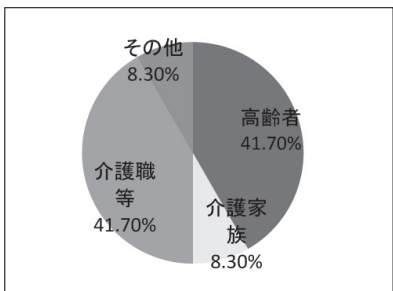
⑩ - 3 - 2 対象者属性の傾向

対象者属性について、対象者の属性が「高齢者」、「介護職等」がともに10件(41.7%)となっている。次いで、「介護家族」、「その他」がともに2件(8.3%)となっている。

表⑩ -3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	10	2	10	0	2	24
割合	41.70%	8.30%	41.70%	0.00%	8.30%	100.00%

図⑩ -3-2 対象者属性



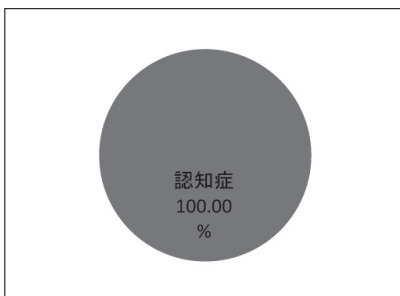
⑩ - 3 - 3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者の10件の中で、高齢者属性は「認知症」のみであり、他の高齢者属性はなかった。

表⑩ -3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	10	0	0	0	10
割合	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100%

図⑩ -3-3 高齢者属性



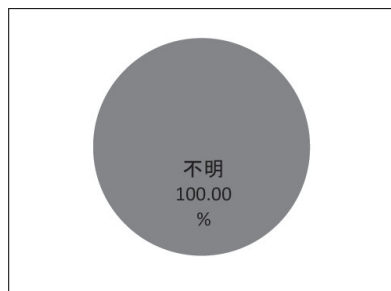
⑩-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、10件全てが「不明」のみであり、他の種類についてはなかった。

表⑩-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型 (ピック)	不明	その他	合計
件数	0	0	0	0	10	0	10
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%

図⑩-3-4 認知症種類



⑩-3-5 所在の傾向

所在については、10件全てが「施設入所(病院含)」であり、他の所在はなかった。

表⑩-3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	0	10	0	0	0	10
割合	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図⑩-3-5 所在



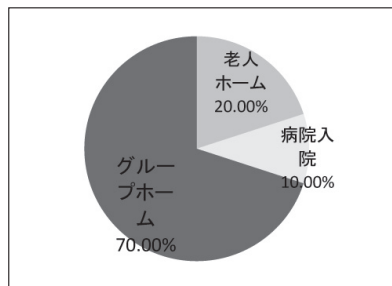
⑩-3-6 利用サービスの傾向

利用サービスについての傾向は、「グループホーム」が7件(70.0%)と最も多く、次いで、「老人ホーム」が2件(20.0%)、「病院入院」が1件(10.0%)となっている。

表⑩-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院	
件数	0	0	0	0	2	0	1	
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	20.00%	0.00%	10.00%	
	グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス 複数利用	在宅系サービス 複数利用	入所・在宅系サー ビス複数利用	不明	合計
	7	0	0	0	0	0	0	10
	70.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図⑩-3-6 利用サービス



⑩-3-7 職員種別の傾向

職員種別について、最も多い種別は「介護職員」であり、5件(50.0%)である。次いで「複数職種」が3件(30.0%)、「看護師」、「介護・看護職」が1件(10.0%)となっている。

表⑩-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	5	0	1	0	0	0	0
割合	50.00%	0.00%	10.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	介護・看護職	複数職種	合計				
	1	3	10				
	10.00%	30.00%	100.00%				

図⑩-3-7 職員種別

